

○西郷小学校ESDカレンダー 評価規準表（2021年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年 探究課題	◆オリエンテーション (3) ・1年間のめあてや見直しをもつ	◆尾崎人形を伝えよう (30) ・「尾崎人形」について知ろう ・「尾崎人形」を未来につなげるために、自分たちにできることを考えよう ・「尾崎人形」をPRする壁新聞をつくろう ・壁新聞の発表会を開こう					・ふるさと学習研究論文にまとめよう			・きてみんしゃい祭りで、PRしよう		◆1年間のまとめ (2)
										◆環境について考えよう (15) ・クリークについて調べよう ・クリーク工事の様子や、クリークに住む生き物の観察をしよう ・クリークの役割やそこに住む生き物、それを支える人について学んだことを新聞にまとめよう		◆学んだことを紹介しよう (20) ○2分の1成人式を成功させよう ・今の自分を見つめ直し、将来について考えよう ・将来への思いや、これから頑張りたいことを大切な人に伝えよう ○3年生に伝えよう ・学習を振り返り、「どんなことを学習したのか」また、「どんな方法で学習したのか」をプレゼンでまとめよう。 ・3年生に向けてプレゼンを発表しよう。
評価の観点とその趣旨(評価規準)						評価の観点とその趣旨(評価規準)						
知識・技能 (6つの構成概念を記入)		<多様性><相互性><連携性> ・職人の方は「尾崎人形」を発展させるために、伝統的な製法を守りながら、時代やニーズに合わせて試行錯誤しながら製品作りを行っていることを理解している。 ・制作体験やインタビュー、工房見学などの活動を通して、課題解決に必要な情報を収集している。 ・地域の「尾崎人形」が伝承されてきたことや、その価値への理解は、地域の人、もの、ことと関わりながら探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。					<公平性><連携性><多様性> ・クリークの環境には、独自の特徴があることを理解するとともに、その環境を後世に残していこうと活動を続けている人や組織の存在、思いに気付いている。 ・講話や工事現場の見学、クリークに住む生き物の観察などの活動を通して、課題解決に必要な情報を収集している。 ・クリークの環境と自分達の生活には関連があることを理解は、クリークとそこに生息する生き物、それを支える人々の関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。			<相互性><連携性> ・今の自分を見つめ直し、自分自身や支えてくれる人々の思いを理解するとともに、夢や今後の目標を持つことのよさを理解している。 ・職業調べやインタビューなどの活動を通して、課題解決に必要な情報を収集している。 ・自分の考えをまとめ発信することは、他者の学びに大きな影響を与えたとともに、自分の知識を深めたり高めたりすることに気付くことができる。		
思考・判断・表現		・「尾崎人形」の制作体験から問いを見だし、「尾崎人形」のよさを探る課題を自らつくり、解決に向けて見直しをもっている。 ・工房見学やインタビュー、資料の読み取りを通して情報を集めるよさを考える。 ・収集した情報を分類・整理し、「尾崎人形」のよさを伝える相手、内容、方法について考えている。 ・活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長を生かして壁新聞や論文形式で表現している。					・現在のクリークと昔のクリークの比較から、クリークの役割と生物の関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を考えながら、学習計画を立てている。 ・教師が提示した方法の中から、課題解決に適した方法を選択している。 ・収集した情報に自己の課題に応じた優先順位をつけている。 ・クリークの環境保全に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。			・ウェブマップを使った自分自身の分析から、将来の夢や、努力していきたいことを明確にし課題を設定するとともに、解決に必要な情報を集めるための学習計画を立てている。 ・教師が提示した方法の中から、課題解決に適した方法を選択している。 ・学習した内容を分類・整理し、表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。 ・活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かしてスピーチやプレゼンテーションで表現している。		
主体的に学習に取り組む態度		・西郷の郷土玩具「尾崎人形」に関心をもち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら、自らの意思で課題を解決しようとしている。 ・「尾崎人形」のよさを伝えるために、職人の方や友達の考えを生かしながら、協働して課題の解決に取り組もうとしている。 ・自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。					・クリークとそこに住む生物の関係を明らかにするという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。 ・自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ・自分とクリークや地域の環境等とのつながりに気付き、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。			・2分の1成人式を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴や良さを理解しようとする。 ・「2分の1成人式」や「学びを伝える会」の開催に当たって、目的意識を明確にして関わろうとしている。 ・西郷小学校の一員であることを自覚し、下級生のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。		

○持続可能な社会づくりの構成概念（国立教育政策研究所）

- ①多様性：いろいろある ②相互性：関わり合っている ③有限性：限りがある
- ④公平性：一人一人大切に ⑤連携性：力を合わせて ⑥責任性：責任をもって